

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0370600272
法人名	医療法人社団敬和会
事業所名	グループホーム いこいの家
所在地	岩手県北上市北鬼柳20-81-1 (電 話) 0197-77-4651

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(20年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 1 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.7 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高見中央クリニック、大通り歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「いこいの家」は、高速道路のインターチェンジに近く、大型店舗に隣接しており、周辺に賑わいのある環境である。ホームの建物は、元は病院であり地域の方からはなじみのある場所である。敷地内には同一法人が運営する介護老人保健施設、訪問看護ステーションが併設しており、主に従業員が利用する保育所があり、連携がとれている。ホームは西棟、東棟の2ユニットが廊下で繋がっており、日常的に利用者が行き来できるグループホームとなっている。通常、食事等はユニット単位で行われているが、共通の行事は一体となって行われ、職員の対応も柔軟にできている。ホームとしては珍しく、犬(ラブラドル)がおり、ホームのなごみとなっている。昨年、理念の見直しを行い、『家庭的な環境の中で「ゆっくり」、「楽しく」、「平穩に」・・・』及び地域密着型サービスとして『地域の中に集う人々のふれあい』を掲げており、地域とのつながりを大切にして、地域にとけこんだホームづくりを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 地域密着型サービスに基づく理念として、職員全員で理念の見直しを行った。「地域の中に集う人々とのふれあい」を大切に、夏祭りに地域の老人クラブ、若妻会の踊りへの参加やホームから江釣子地区での古墳祭への参加などの取り組みがなされた。運営推進会議上で、地域の情報を区長、民生委員から提供されている。今後は町内会への加入を検討するなど、組織的に地域とのつながり、連携を一層深めることを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 昨年度の評価を参考に、管理者、ケアマネ、職員一同が職員会議の場で、質疑、意見交換のうえ検討を行い作成された。作成後は全職員に報告、回覧して周知を図っている。今年度の自己評価の内容は、一部を除き昨年度と、ほぼ同じ表現となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、地域包括支援センター、区長、民生委員、家族会に施設の管理者等が加わって構成されており、2か月に1度開催している。ホームの近況報告等のほかに前回サービス評価の結果と改善経過の報告を行っている。又、年に1回、他のホームの施設見学等を実施しており、意見、情報交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 広報誌を隔月で発行し、生活の様子が分かるようにしている。家族の面会時には利用者の日常生活の様子を報告し、家族からの要望も聞いている。また、家族会、運営推進会議などの機会に、家族からの意見や相談が寄せられている。苦情受付の案内も掲示されており、家族との面会時にも意向を伺うようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 通常の住宅地とはやや異質な周辺環境にあつて、同一敷地内の老健、保育所などのいわば姉妹施設とは、連携がとられた活動が行われており、地域の中に集う人々とのふれあいを理念に掲げ、積極的に関わりを持てるように努めている。区長・民生委員から地域行事の情報を提供して頂いている。今後は避難訓練などは独自の実施や地域への働きかけについてより一層、取り組みされるよう期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年度受けた指摘に対応し、これまでの理念を職員会議で見直しを行い、地域密着型サービス事業所として、地域の中に集う人々とのふれあいを大切にしたその人らしい安心できる生活を目指した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やミーティングの中で日常生活でも常に理念を見たり確認したりしている。のんびり・楽しく・平穩に この3つのキーワードを大切にしており、施設内では、廊下や壁に理念が掲示され、理念の共有や、個人のケアに取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りは、地区に回覧し地域の老人クラブや若妻会の人たちが参加して踊り、バイキング(職員手作り)、楽器演奏等を共に楽しんでいる。また毎年江釣子地区の古墳祭りに参加し、墓参りをしている。町内会、自治会の加入はしていないが、地域の情報は区長や民生委員からいただいている。	○	大型店舗、新興住宅等の立地上の制約もあり、ホームの向かい側は古い住宅が並んでいるものの、区域外であり自治会への参加、活動が難しい面もある。しかし社会の一員として地域と共に生活することは大切である。自治会への加入を前向きに検討され、地域との連携を一層強化する事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては7名(管理者、ケアマネ、職員)で検討し作成したものを全職員に報告し意見交換を行い確認をした。外部評価については、全職員で話し合い改善がなされた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催している。利用者の状況、ホームの活動、運営状況の報告、外部評価の結果報告の結果も報告している。会議の中で要請された施設見学を実施し、他のホームを年1回見学し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが窓口となり、代理申請の手続等やグループホームの概要を市から回覧してもらっている。夏祭り等、行事の案内も出している。しかし、市の担当者との連携は密接とは言えない状況である。運営推進会議のメンバーには地域包括支援センター職員が入っている。		地域密着型サービス事業所としての考え方、実態を担当者によく知ってもらい、情報を共有していくことが大切である。市に対し、今後も引き続き関係作りを積極的に行うことに期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌を2カ月に1回発行し、ホームの生活の様子などを掲載しており、家族へ情報提供している。体調が悪いときは家族へ電話して来所してもらっている。家族の面会時にも状況報告をしている。金銭管理については毎月郵送にて報告をしている。毎年12月には家族との懇親会を開催している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や、苦情受付窓口を廊下に掲示してある。面会時や家族会等の機会をとらえて、何でも言ってもらえるような関係作りに努めている。外部者へ意見を表す機会は設けていない。意見は推進会議の場で意見を聞いており、ホームの運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者と職員とのなじみの関係を維持するため異動は極力控えている。2ユニットなので、利用者と職員との交流も多い。馴染みの職員が多いことがメリットであり、新採用の職員とも特にトラブルはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県のグループホーム協会、ブロック別の研修会、ホーム独自の研修委員会等の計画が立てられ、段階に応じた研修に出席されている。研修の報告と資料は職員会議等で報告した後ファイルされ、いつでも活用できるよう整理されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会の参加、昨年度の交換研修では他事業所とテーマを持ち寄り情報交換もしている。遠野のグループホーム(管理者、ケアマネ会議)との交流も深めている。今年度の計画はまだ未定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族には見学に来ていただいている。職員も自宅へ訪問したり、他の施設から直接ホームを利用される方は施設の職員と一緒に来ていただきながら馴染める関係作りに取り組んでいる。それでも落ち着かない入居者は、徐々にホームの職員や雰囲気に馴染んでもらえるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個人の生活歴を基にそれを活かすように物の大切さや、人と人としての関係を大切にしている。職員へ編み物の靴下のプレゼントをしたり、料理の下ごしらえ、味見をしたり共に過ごし支えあえる場面を作るよう取り組みがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様子を観察しながら、本人の意向や思いを聞き取ることができるよう記録をし、共有しながら検討している。夜間不安になる方が多いので話し相手になるようにしており、口にしにくいことは、できるだけ態度から推し量るようにしている。申し出があればその対応についても検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人のニーズと家族の意向を取り入れて作成している。3カ月に1回は面接時に計画書を手渡ししており、訪問看護ステーション(医療連携サービス)の看護師のアドバイスや法人内のケアマネ会議でも検討し相談しながら、介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回は定期的に見直しをし、又、介護度の変更があったり状態の変化があった場合は、カンファレンスで見直しのうえ、計画を作成し家族へ報告をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診の付添いは家族が原則ではあるが、本人や家族の要望があれば通院や検査に同行している。居室が空いた場合には短期入所にも対応している。外出、外食など、要望があれば柔軟な対応がなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の協力医である日高見中央クリニックと連携を取り、訪問診療を行っているほか、以前からのかかりつけ医の診療も受けており、経過記録を家族に渡している。又、家族からも医師の意見の記録があり、関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化及び看取り介護に関する指針が作成されており、入居時に家族に説明し同意が得られている。法人である老人保健施設が併設されているが、終末期ケアの実績は無く、実際の現場に不安があるため、職員全員の統一が図られるよう話し合いがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マニュアルは作成されていない。今後の方針の共有について検討すべき課題と思われる。ミーティング等で話し合いがなされ、趣旨の徹底に努められており、個別にプライバシーやプライドを損ねないよう配慮と工夫がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れは決まっているものの、これにこだわらずに利用者のペースに合わせた過ごし方ができるよう、支援を行っている。花を持ってきて飾る人、外気浴でうたた寝する人など、個性に合わせた支援がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	老人保健施設の管理栄養士が作成している献立を参考にして食事を提供している。食材の購入については、現在は職員のみで行っている。生活歴から苦手なものは出さないよう配慮工夫している。食事の準備は下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳等職員と共に行っており、和やかな雰囲気でお互いに話しかけ、時に大きな笑い声を交えながら楽しい雰囲気で行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽は大、小があり、通常は大きい風呂で一日おき(西棟、東棟交互に)と決めているが要望があればいつでも入浴可能である。時間帯は14時から16時30分頃までとしているが、今後要望があればその時間に対応できるように検討することになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片付け、洗濯物干し、洗濯物のたたみ方、草取り等、役割を積極的に行ってくれるが、体の機能の低下により難しくなっている方もいる。散歩は天気の良い日に行っており、冬期間は工夫が求められる。桜の咲く時期には木の下で食事をしている。外食は2カ月に一度は実施しており、楽しみの一つである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には本人の希望により、散歩、買物、ドライブなどに外出し、季節の変化も味わっている。ドライブの際にはリフト車を使用し、楽しい外出支援がなされている。散歩等は近辺のショッピングセンターや、法人の周辺をゆっくり、のんびりとしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	大型店舗に隣接するなどの立地上の特性から、出入り口については、外部からの進入を防ぐなどの防犯上の理由で施錠している。また、徘徊する方がいる場合は、了解を得て施錠している場合がある。東棟は介護老人保健施設と間違えて訪問する方がいるため、防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は老人保健施設と一緒に消防署の協力を得ながら年2回実施しているが、地域との連携が取られていない。グループホーム協会主催の防災訓練の受講を、11月に予定している。ホーム独自での避難訓練の実施はしていない。	○	職員のための誘導には限界があり、地域住民への働きかけや警察や消防署等と連携を図りながら、具体的な支援体制づくりに取り組むことに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日1000ccを目安にしている。老人保健施設の管理栄養士のアドバイスを受けながら、きざみ食、おかゆ食を提供している。ミキサー食からきざみ食になったり、介助からひとりで食べられるようになった方もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元病院を改装しての居間、台所、食堂等はとても良く工夫され、共用空間には各種行事の写真の掲示がある。季節を感じさせる花や飾り等もあり西棟、東棟の通路が少々距離があるため、歩行訓練や運動にもなる他、開放感がある造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベット、仏壇、椅子、タンス、写真等が本人の希望により持ち込まれている。フロアと畳があり入居者の好みに合わせている。元は病室であった4人部屋には、家族が頻繁に面会に来る利用者の部屋になっており、いつでも宿泊できるようになっている。		